

2025年 長崎市立長崎中学校 平和宣言文

平和とは、日々のささやかな幸せの中にあります。

美味しいご飯を食べること、寝たいときにぐっすり眠れること、学校で友達や先生と一緒に学ぶこと、みんなと楽しく遊ぶこと、嫌いなものを嫌いだといえること、好きな音楽に耳を傾け語り合うこと。

これらは、私たちが当たり前だと感じている「幸せ」そのものです。このかけがえのない「当たり前」が奪われる生活を想像したことがありますか。

1945年8月9日午前11時2分、たった一発の原子爆弾が、私たちの故郷ナガサキを一瞬にして破壊しました。愛する家族や友人の命が奪われ、見慣れた景色は瓦礫と化し、住み慣れた家は跡形もなく消え去りました。放射線による苦しみは長く続き、生き残った人々もまた、心と身体に一生消えることのない深い傷を負いました。

あの日から80年。長崎のまちは人々のたゆまぬ努力と希望によって見事に復興を遂げました。しかし、世界には今もなお、争いや貧困、差別が存在し、多くの人々が苦しんでいます。日本においても、いじめや差別によって笑顔を失っている人がいることを、私たちは知っています。

まわりを見てください。心無い言動で傷ついている人はいませんか？隣にいる人は心から笑っていますか？真の平和を実現するために、私たちに何ができるでしょうか。

被爆者の方々は、思い出すのも辛いであろうあの日の記憶を、世界に向けて訴え続けています。2024年には、核兵器のない世界を目指す活動が評価され、日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞しました。声をあげ続ければ、その思いは必ず誰かに届くのです。

しかし、高齢化が進む中、戦争や核兵器の恐ろしさを知る方々から直接話を聞く機会は減り続けています。だからこそ、ふるさと長崎で起きた悲劇と真摯に向き合い、平和がどれほど尊いものかを心に深く刻み、それを発信していかなければなりません。これが、平和の象徴「長崎」に生まれた私たちの使命だと思います。

平和とは、たった一度の破壊で失われ、取り戻すのに計り知れない努力と時間がかかるもろいものです。だからこそ、私たちはこの「当たり前」の幸せを守り、育んでいかなければなりません。争いのない、誰もが安心して暮らせる世界を、次の世代へ繋いでいくために。

私たちの日々が平和で笑顔あふれるものであり続けるように、長崎中学校生徒一同は、次の3つのことを宣言します。

- 1、 「命は時間」です。自分に与えられた時間をどのように使うか考えて1日1日を大切に過ごします。
- 2、 いじめや差別は絶対に許しません。相手を尊重し、助け合いの心で行動します。
- 3、 世界で起きていることに目を向け、自分にできることは何かを常に考えて生活します。

以上の3つを胸に刻み、私達の手で平和な世の中を作っていくことをここに誓います。

令和7年8月9日 長崎市立長崎中学校生徒会